

進和学園

農産品加工場を建設

農業振興と就労支援両立へ



利用者がトマトジュースの瓶詰作業を公開した

同法人の施設「しんわ
ルネッサンス」の作業棟を
一部改修し、加工場は整備さ
れた。青果をジュースやジ
ャムに加工する搾汁機能を
備えているのが特色で、小
ロットで多品目に対応でき
る加工場としては県内初の
施設になるという。

工場建設には、農林水産

省が地場農産物の製品開発
や販路開拓に資するとし
て、6次産業総合化事業に
認定。総工費9115万円
のうち、交付金3318万
円が充てられた。

加工場では、進和学園で
生産しているトマトやブル
ベリー、ニンジンという
た農産物をはじめ、県内農

知的障害者らの就労支援施設など運営する社会福祉法人進和学園(出縄雅之理事長)が5日、竣工したばかりの農産品加工場「湘南工房」(上吉沢)のオープニングセレモニーで施設を公開した。加工場の建設には、農林水産省の6次産業化ネットワーク活動交付金を活用。同法人は農業振興と就労支援の両立を目指す。

産品を仕入れてジュースや
ピューレ、ケチャップ、ソ
ース、ドレッシング、ジャ
ムなどに加工、農産物の付
加価値を高めて出荷する。
加工や瓶詰め、ラベル貼
りといった作業は、障害を
持つ10人の利用者が担う。
同学園の久保寺一男統括施
設長は「福祉には異業種交
流の機会が少ない。地域の
農業振興に力を提供した
り、商品が一般市場に流通
したりするのは、利用者にと
ってやりがいになるし、
雇用や工賃にもつながる」と
話している。

加工された商品は、NP
O法人湘南スタイル(茅ヶ
崎市)から提供された「湘
南工房」の商標を冠して販
売する。周辺市町村の飲食
業組合やホテルなどに売り
込む一方、地元農家や農協
から寄せられるオリジナル
製品の受注も対応する。

湘南スタイルは商品開発
支援や販路拡大にも参画す
るが、こうしたネットワー
クの構築がこの6次産業化
の特色でもある。JA湘南
など農協組織は材料調達に
協力、平塚市や神奈川県農
業技術センターも情報提供
や技術指導するなど、加工
場の運営を支援する。

加工場では現在、利用者
がトマトジュースやピュー
レなどの試作に取り組んで
おり、7月上旬を目途に出
荷を始める構えだ。利用者
の時田宗幸さんは「工場は
広くてとてもいい。ジュ
ースも美味しく仕上がって
いる」と笑顔で話していた。
出縄理事長は落合克宏市
長ら関係者が出席したオ
ープレッセルモニーで、障
害をもつ人たちに生活や働
く喜びを提供し、生きがい
のある人生を支援する夢が
またひとつ開花した」と挨拶。
落合市長は「農業を取り
巻く環境は厳しいが、こ
のような施設は農業や農政

にとつてありがたい。六次
産業化の道標になって欲しい」と期待を寄せていた。

しんわルネッサンス農産品加工場オープン 障がい者の就労支援通じ生きがいに

社会福祉法人進和学園(出縄雅之理事長)では県内初の小ロット、多品目農産加工場を竣工したとして5日、完成記念式典と関係者を招いての視察が行われた。

同工場は農水省の6次産業化ネットワーク活動交付金を活用して建てられたもの。学園内で生産しているトマト、ブルーベリー、ニンジン等の農作物をベースに県内農産品を6次産業化することで就労支援と農業振興を両立させたいという狙いだ。工場では各種ジュースやジャム、ドレッシングやソースなどが生産されており「湘南工房」のブランド名で一般にも流通予定。現在は



6月下旬から7月予定の一般販売に向けて試作を行っている真っ最中だ。

統括施設長の久保寺一男さんは「地域の農業振興に参加できることが利用者の生きがいに繋がる。人数を増やし、工場の拡大を目指したい」と期待を寄せている。